

航空科学技術分野プログラムの進捗状況把握によるプログラム評価（令和4年度）（フォーマット素案）

令和4年5月 航空科学技術委員会

1. 航空科学技術分野研究開発プランを推進するにあたっての大目標：「国家戦略上重要な基幹技術の推進」（施策目標9-5）

概要	航空科学技術分野の研究開発及び利用の推進については、産業競争力の強化や経済・社会的課題への対応に加えて、我が国の存立基盤を確固たるものとするものであり、国家戦略上重要な基幹技術として、長期的視野に立って継続的な強化を行う。
----	---

2. プログラム名：航空科学技術分野研究開発プログラム

概要	第6期科学技術・イノベーション基本計画期間を含む今後の10年程度を見通しつつ、今後文部科学省として推進すべき個別具体的研究開発課題として、研究開発プランとしても位置付けている航空科学技術分野に関する研究開発ビジョン 最終とりまとめ（令和4年2月18日航空科学技術委員会）の実現に向けた活動を進める。
----	---

3. プログラムの実施状況

(1) プログラム全体に関連する指標及びその状況（※プログラムで設定した指標とその状況を記載）

※プログラム開始から終了等の適切な年度までについて記載する。

年度		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
		FY30	FY31	FY2	FY3	FY4	FY5	FY6	FY7	FY8	FY9	FY10	FY11
アウトプット 指標	①航空科学技術の研究開発の達成状況（JAXAが実施している共同/委託/受託研究数の観点も含む）												
アウトカム 指標	①航空科学技術の研究開発における連携数（JAXAと企業等の共同/受託研究数）												
	②航空科学技術の研究開発成果利用数（JAXA保有の知的財産（特許、技術情報、プログラム/著作権）の供与数）												
備考	「③航空分野の技術の国内外の標準化、基準の高度化等への貢献」があれば記載												

(2) 個別の研究開発課題に関連する指標及びその状況

※研究開発課題数に合わせて記載欄は調整する

※研究開発課題評価実施年度の欄に、評価実施（予定）年度に従い、「事前」「中間」「事後」と記載する。

※各研究開発課題の進捗状況把握のため、政策評価における事前分析表及び行政事業レビューシートを使う場合は、当該資料を添付し、資料する指標について「既存の指標以外の指標を設定する場合」欄に必要事項を明記することで、「既存の指標を転記する場合」欄への転記を省略することができる。

※事前分析表及び行政事業レビューシートに記載されている指標以外の指標を設定する場合は、「既存の指標以外の指標を設定する場合」欄に必要事項を明記すること。インパクト/アウトカム/アウトプットの定義については、「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」（最終改定平成29年4月1日）「本指針における用語・略称等について」を確認すること。

※「既存の指標を転記する場合」欄～「既存の指標を参照する場合」欄について、使用しない行は削除すること。また、目標値を設定していない年度については「-」と記載する。

① 既存形態での航空輸送・航空機利用の発展に必要な研究開発・・・（※プログラムに記載の重点的に推進すべき取組を記載する。）

目的・概要	<p><目的> 安全性、信頼性、環境適合性、経済性等の社会の流れを踏まえた共通の要求への対応を追求するとともに、「より速く」、「より正確に」、「より快適に」、「より無駄なく」といったユーザー個々のニーズに細かく対応した高付加価値のサービスが提供されることを目指す。</p> <p><概要> 「脱炭素社会に向けた航空機のCO2排出低減技術の研究開発」「超音速機の新市場を拓く静粛超音速機技術の研究開発」「運航性能向上技術の研究開発」について、重点的に取り組む。</p>														
課題実施 機関・体制	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）航空技術部門														
年度		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029		
（※網掛けは課題実施期間）		FY30	FY31	FY2	FY3	FY4	FY5	FY6	FY7	FY8	FY9	FY10	FY11		
研究開発課題評価実施年度		-	-	-	-	事前			中間		事後				
予算額及び翌年度要求額（億円）		-	-	-	-										
既存の指標を 転記する場合	指標の種別 （測定/成果/活動）	指標	単位	実績値						目標値					
	活動	①航空科学技術の研究開発の達成状況（JAXAが実施している共同/委託/受託研究数の観点も含む）													
	成果	①航空科学技術の研究開発における連携数（JAXAと企業等の共同/受託研究数）													
既存の指標以外 の指標を記 載する場合	指標の種別 （測定/成果/活動）	指標	単位	実績値						目標値					
	成果	②航空科学技術の研究開発成果利用数（JAXA保有の知的財産（特許、技術情報、プログラム/著作権）の供与数）													
既存の指標を 参照する場合	指標の種別 （測定/成果/活動）	指標	添付資料の 該当頁(頁)	添付資料の概要頁の該当箇所											
添付資料名	<p>（※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を記載する。）</p> <p>→ プログラム評価の一環として毎年、JAXAから研究開発ビジョンの進捗状況（概要）を各項目1枚程度で報告してもらい、その資料を添付する。</p>														
備考	（※特記事項があればその内容について簡潔に記載する。）														

②次世代モビリティ・システムによる更なる空の利用に必要な研究開発・・・（※プログラムに記載の重点的に推進すべき取組を記載する。）

目的・概要	<p><目的> 無人航空機（ドローン）や“空飛ぶクルマ”が空における次世代モビリティ・システムとして持続可能な人間中心の交通ネットワークの実現に貢献し、既存形態の航空機にはないメリットも生かしつつ、これまで航空に対して向けられていなかったユーザーのニーズを満たすような性能を持ち、かつこれらのモビリティの安全な運航を可能とする技術が、電機産業・自動車産業をはじめとする航空以外の分野の技術や宇宙技術、デジタル技術等と融合しつつ確立することを目指す。</p> <p><概要> 「国土強靱化等を実現する多種・多様運航統合／自律化技術の研究開発」「宇宙輸送にも適用可能な水素燃料適用技術の研究開発」について、重点的に取り組む。</p>														
課題実施機関・体制	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）航空技術部門														
年度 （※網掛けは課題実施期間）				2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
研究開発課題評価実施年度				FY30	FY31	FY2	FY3	FY4	FY5	FY6	FY7	FY8	FY9	FY10	FY11
予算額及び翌年度要求額（億円）				-	-	-	-	事前			中間		事後		
既存の指標を転記する場合	指標の種類 （測定/成果/活動）	指標	単位	実績値					目標値						
	活動	①航空科学技術の研究開発の達成状況（JAXAが実施している共同/委託/受託研究数の観点も含む）													
	成果	①航空科学技術の研究開発における連携数（JAXAと企業等の共同/受託研究数）													
既存の指標以外の指標を記載する場合	指標の種類 （インパクト/アウトカム/アウトプット）	指標	単位	実績値					目標値						
既存の指標を参照する場合	指標の種類 （測定/成果/活動）	指標	添付資料の該当頁(頁)	添付資料の概要頁の該当箇所											
添付資料名	<p>（※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を記載する。）</p> <p>→ プログラム評価の一環として毎年、JAXAから研究開発ビジョンの進捗状況（概要）を各項目1枚程度で報告してもらい、その資料を添付する。</p>														
備考	（※特記事項があればその内容について簡潔に記載する。）														

③デザイン・シナリオを実現するための基盤技術の研究開発・・・（※プログラムに記載の重点的に推進すべき取組を記載する。）

目的・概要	<p><目的> デザイン・シナリオの実現に向けて、新たなニーズや社会の変化に対応した新しい発想を取り入れながら持続可能な航空産業への転換を図りつつ、国際競争力を強化していく。</p> <p><概要> 航空機的设计・認証・製造・運用・廃棄というライフサイクル全体のデジタルトランスフォーメーション（DX）により効率化、高速化するとともに新たな航空機の創出に資する航空機ライフサイクルDX技術の研究開発を重点的に進める。</p>														
課題実施機関・体制	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）航空技術部門														
年度 （※網掛けは課題実施期間）				2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
研究開発課題評価実施年度				FY30	FY31	FY2	FY3	FY4	FY5	FY6	FY7	FY8	FY9	FY10	FY11
予算額及び翌年度要求額（億円）				-	-	-	-	事前			中間		事後		
既存の指標を転記する場合	指標の種類 （測定/成果/活動）	指標	単位	実績値					目標値						
	活動	①航空科学技術の研究開発の達成状況（JAXAが実施している共同/委託/受託研究数の観点も含む）													
	成果	①航空科学技術の研究開発における連携数（JAXAと企業等の共同/受託研究数）													
既存の指標以外の指標を記載する場合	指標の種類 （インパクト/アウトカム/アウトプット）	指標	単位	実績値					目標値						
既存の指標を参照する場合	指標の種類 （測定/成果/活動）	指標	添付資料の該当頁(頁)	添付資料の概要頁の該当箇所											
添付資料名	<p>（※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を記載する。）</p> <p>→ プログラム評価の一環として毎年、JAXAから研究開発ビジョンの進捗状況（概要）を各項目1枚程度で報告してもらい、その資料を添付する。</p>														

備考	(※特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)
----	-----------------------------

4. プログラムの現状についてのコメント（任意）

(※分野別委員会等として、本プログラムの進捗状況におけるコメントがある場合は記載する。)
 →航空科学技術委員会において、プログラム評価の一環として毎年JAXAから研究開発ビジョン全体の進捗状況（概要）を各課題項目毎に1枚程度で報告を受け検討

5. 参考

政策・施策番号	9-5
施策目標	宇宙・航空・海洋・極域、更には原子力の研究開発及び利用の推進については、産業競争力の強化や経済・社会的課題への対応に加えて、我が国の存立基盤を確固たるものとするものであり、国家戦略上重要な基幹技術として、長期的視野に立って継続的な強化を行う。
達成目標番号	6
達成目標	航空科学技術について、我が国産業の振興、国際競争力強化に資するため、社会からの要請に応える研究開発、次世代を切り開く先進技術の研究開発及び航空産業の持続的発展につながる基盤技術の研究開発を推進する。

行政事業レビュー事業番号	文科・20-0309
行政事業レビュー事業名	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費交付金に必要な経費
行政事業レビュー事業目標	公正中立な立場から航空分野の技術の標準化、基準の高度化等に貢献する取組を積極的に行う。